

短歌

末武 有二 選

足元に先導すること飛蝗ばった跳ぶ秋晴れの野の轍なま
ゆく屋 安永 守住 孝子

色競いシクラメン咲く窓の辺は心の日だまり
花に癒やさる 惣領 島田 廣子

炊きたてのご飯に高菜の一夜漬け初冬の味を
噛みしめる朝 木山 本田 龍子

秋晴れに川のほとりを散歩するクレソン摘ん
だ水の辺消えた 宮園 島 みつき

冬の空飛行機雲を見つければ飛んで行きたい
吾子の住む地に 広崎 日野ヒロ子

晩秋の夕焼け空に黒い列寝ぐらに急ぐ鳴き声
寂し 惣領 新居 露子

縁側の日向恋しく座り込む春待つ梅花光り輝
く 広崎 大原 郁

此の晴れ着三代続き孫たちに着せた思い出眼
が潤む 広崎 瀬戸サイ子

菓飲む吾子の背中を見つめおり兔の年も健康
であれ 江津 高田美佐子

季節ごと絶え間なく咲く友の庭一度きりだな
我が人生は 田原 永田巴智子

大切なあなたの票が左右する尊い平和護まもって
行こう 木山 西田 正巳

投稿は、一人一首(句)でお願いします。

俳句

河野 全平 選

鳥インフルかしこいツルの北帰行 出水平野
降る雪や拉致の人々遠くなり 令和草田男

令和五年四賢婦人へ初詣り 益城のクリスチャン
初ボーナス孫の情のお裾分け 惣領 野タロトミ子

赤い羽根回覧板からそっと抜き 古閑 今村 恒心
コスモスに待ち伏せしてる猫の影 木山 本田 龍子

文春の新年号の蓋棺録がいかんろく 木山 西田 正巳
艶やかに冬日に映えて実南天 宮園 秋月 充博

日向ぼこルーベ重たき齡よむかな 熊本市 境 眞木子
一句鑑賞 振子時計の脚が跨またぎぬ去年今年 鈴木 貞雄

川柳

布田川左門 選

『お題』 自由詠
母と子は会えば泣くだろ縋すがるだろ アントニオ猪木

七冠が五冠に挑む将棋かな 王 将 戦
トロフィーはPK戦で南米へ サッカー長夜

人生は楽しんだ者が勝ちなのよ 瀬戸内寂聴

『お題』 気になること
ドライバークセルブレーキ踏み違い 後期高齢者

施設へと旧友が行く別れかな 八十八翁
停電や原発前へと経産相 地球温暖化

新婚に残業させる上司かな 赤井の酔酔

次回のお題 「元氣教室」

投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場
広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。



益城の文化財
町文化財保護委員会

土山

鯪瓦しやちがわら(土山瓦)

今回紹介する鯪瓦は、かつて土
山瓦師であった吉田家で、長年保
管されていたものです。熊本城の
復旧にも携わっている宇城市の瓦
師、株式会社藤本鬼瓦製作所に
よって修復された後、益城町へ寄
贈されました。

「土山瓦」は、土山地区周辺で江
戸時代から昭和60年代まで製造さ
れ、県下を代表する瓦産業の一大
ブランド。江戸時代には、当時の
熊本藩主であった細川氏により「御
用瓦」として、熊本城をはじめ多く
の寺社などの建物の屋根を飾りま
した。

では、なぜ土山瓦がこの地で一
大産業となりえたのか。それは、
次のような好条件がそろっていた
ためと考えられます。

①土山周辺一帯の水田の下に、瓦
造りに最適な粘土層が広がって